

よくわかるリスクアセスメント - 事故未然防止の技術 -

向殿 政男 著、中央労働災害防止協会（中災防新書）176 頁

ISBN 4-8059-0901-3（定価 900 円 + 税）2003 年 10 月 24 日発行



〔目次〕

はじめに

第一章 リスクとは

第二章 安全とリスク

第三章 リスクアセスメントの考え方

第四章 リスクアセスメントの方法

第五章 危険源の同定

第六章 リスクの評価方法

第七章 リスク低減方策

第八章 リスクレベルとリスク低減方策

第九章 許容可能なリスクの判断

第十章 リスクと安全文化

あとがき

参考文献

よく非難の対象となる日本人の「水と安全はタダである」という感覚は、わが国民の特質であり、誇るべき気質である。また、「お上」に従えば何事もうまくいき、安全にすごせるといふ、感覚も自然に心の深層に住み着いている。しかし、今日ではリスクはいたるところにあり、これを認識し、覚悟して受け入れなければ、日常生活さえも立ち行かない。

本書の読者は、やさしい言葉づかいと巧みな章立てにより、このリスクへの処し方を体得しなければならぬと誘導されてしまう。このため、リスクという肌触りの悪いテーマを扱っているにもかかわらず読後感是非常に爽やかである。

もちろん、リスクアセスメントが本義をまっとうし、公明盛んにリスクについて議論される社会、すなわち“安全文化”が醸成された社会にならなければ、安心してリスクを受け入れることなどできない。この課題については、第十章で具体的に説明されている。

本書の中核をなす他の章では、わかりやすい図表と豊富な事例によりリスクアセスメントの内容が説明されているとともに、リスクアセスメントへのとりくみの姿勢までも明示され、リスクアセスメントの本義がすなおに心に染み入るように配慮されている。